

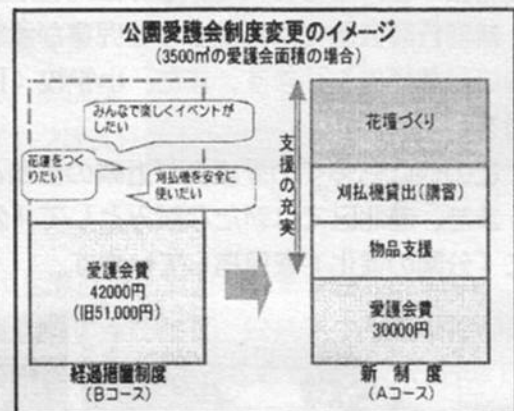
平成20年度 新制度に全面移行します！

平成17年度の愛護会支援の新制度導入の際、平成19年度まで3年間経過措置として従来どおりの制度も並立させておりましたが、平成20年度からすべての愛護会が新制度への移行となります。

■ 新たな愛護会支援の狙い ～意欲的な愛護会への支援を充実、より達成感のある活動に～

新たな愛護会支援制度では、従来の現金のみの画一的な支援から、金額は減りますが、①花壇づくりなどの「技術支援」、②鎌やゴミ袋などの「物品支援」、③活動のサポートやアドバイスを行うための「活動のコーディネート」を新たに導入しました。これによって、活発に活動している愛護会にはこれまで以上の支援を行うことが可能となりました。

また、これまでの愛護会活動は除草・清掃といった活動が中心となっていました。花壇づくりなど、楽しく、達成感のある活動が広がりつつあります。



■ 新制度の効果について ～公園だけにとどまらない地域全体への効果～

新しい愛護会支援の効果として、たとえば、花壇づくりを行ったことで、「活動の評判が良くなった」(55%)、「ごみが減った」(31%)という声が、平成19年10月に実施したアンケートで寄せられています。さらには、不審者がいなくなるなど公園や地域を取り巻く環境への良い影響が生まれています。

■ 活動の展開方法について ～活動のコーディネートも支援の柱～

一方で、「花壇づくりや中低木の管理などをやりたくても人手がない」、「うちの愛護会は花壇を作る場所がない」という声も寄せられています。新制度では活動へ新たな参加者を集めるための地域への働きかけ、「公園のプロ」によるアドバイスといった活動のコーディネートも支援の柱となっています。また、「この公園ではできない」と思われる活動内容でも、工夫次第では十分に活動が可能な場合もありますので是非ご相談ください。



刈払機講習

■ 今後について ～よりよい愛護会支援制度にしていくために～

この新たな愛護会支援制度への改革については、昭和36年に公園愛護会制度が発足して以来、初めての大きな改革でしたが、完成形ではありません。平成20年度、すべての愛護会に新制度での支援をお受けいただきながら、愛護会や地域の特性に応じた支援が行えるよう、今後より良い制度へと見直しを図ってまいります。

公園愛護会等 コーディネーター 便り

地域の中を飛び回り、皆様とともに考え、行動する、公園愛護会と行政の調整者「公園愛護会等コーディネーター」。

◆今回は港北区の港北土木事務所の吉原コーディネーターからの発信です。



コラボレーションで公園愛護会をいきいきと！

桜の便りにのって春爛漫の季節が来ました。港北区には151の公園愛護会が結成され日々公園に目配り気配りをしていただいています。

ここに近隣の皆様と連携しながらいきいきと活動されている公園愛護会をご紹介します。

日吉公園では毎年日吉台小学校三年生の児童が愛護会の皆様と「ふれあい清掃」をしています。

グランドゴルフ愛好会の皆様や菊名南町自治会による毎月の定例清掃と、年に一度近隣の皆様が参加して交流会が盛大に行われているのは菊名池公園です。

新羽丘陵公園では新羽小学校児童が孟宗竹の観察やサツマイモの植え付けを経験し、6年生になると公園内に記念植樹をします。また、小学校（PTA）と花の里づくりの会と公園愛護会が協力して三位一体の運営をしています。

この他にも多くの愛護会が近隣の皆様とのコラボレーションによる活動をいきいきとしています。

また、港北区では新たな試みとして「公園からはじまる子育て支援～公園だからできること～」をテーマに「公園の進化」を目指しています。
(港北土木事務所 電話：045-531-7361)



日吉公園でのふれあい清掃風景



菊名池公園での活動風景を掲示



新羽丘陵公園での植樹祭風景

緑の環境リーダー育成講座

平成19年度、保土ケ谷区の狩場町にある「環境活動支援センター」で「地域緑の環境リーダー育成講座」が実施されました。地域の緑を地域に住む人たちの手で「まもり、つくり、そだてる」活動を引っ張るリーダーに必要な知識技術を学ぶ実践講座でした。

1月8日に、金沢区と港南区の愛護会の皆様が集まっている講座に、環境活動事業課から職員2名が出席し、「公園愛護会のアンケート結果などから見る公園愛護会の全体像」について講演した後、「区内の公園愛護会を効果的に支援する方法についての話し合い」に参加しました。

時間があつという間に過ぎていく密度の濃い話し合いに、公園愛護会の皆様の熱意を改めて実感させていただきました。4月から受講生の皆さんは区内のさまざまな愛護会と連携した活動を行うということ。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



～お知らせ～ 第20回全国「みどりの愛護」のつどい 横浜市に開催決定！

開催日：みどりの月間（平成21年4月15日～5月14日）のうち1日

会場：横浜動物の森公園（よこはま動物園ズーラシア未整備地区）

内容：式典、「みどりの愛護」功労者表彰、記念植樹等



青葉区のプレイパーク活動について

青葉区では、公園を利用して子どもたちの自主性や冒険心を育てるための冒険的遊び場づくりをプレイパーク活動として位置づけ、市民との協働で進めています。

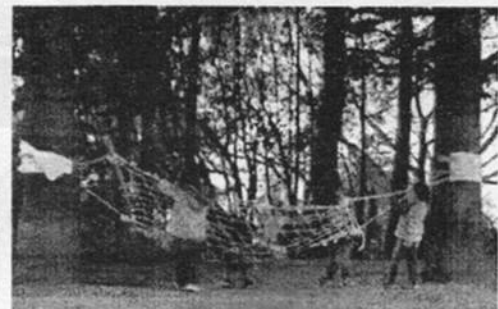
プレイパークは、「自分の責任で自由に遊ぶ」という理念のもと、地域住民の皆様が中心となって、地域の身近な公園・緑地の一部を自由な遊び場として活用する活動です。

◆平成19年度に、区内の団体が実施した「一日プレイパーク」

①青葉区新石川二丁目2-1 新石川公園(近隣公園) 3回実施
どろんこ遊び、ハンモック、トン汁づくりなど

②青葉区しらとり台5-1 しらとり台公園(街区公園) 4回実施
落ち葉焚き、べっこう飴づくり、トン汁づくりなど

今後は、プレイパーク活動に取り組む団体につきましては、青葉区で実施している「協働による地域力アップ事業」などを活用し、関係課が連携し支援していきます。(青葉土木事務所 電話：045-971-2300)



人気のハンモック



早く食べたいなあ

H19年度 せやキッズあいごかいの紹介

瀬谷区では、「せやキッズあいごかい」が、今年度から4校(上瀬谷小、瀬谷小、三ツ境小、原小)で活動を進めています。これは、小学校児童が公園愛護会の活動に参加することで、公共マナーを身につけ、地域とのより良いコミュニケーションを図ることにより、防犯面でも効果があることから始めたものです。

このうち、上瀬谷小学校と瀬谷小学校では、総合学習授業の一環として、近くの公園を清掃し、児童は、様々な人たちが関わることで公園がきれいに保たれていることを理解しました。また、子供達が清掃をしていると公園を利用している人から「ありがとう」と声を掛けられ、自分達の行動が感謝されていることに喜びを感じたようです。大人になったら公園愛護会に入りたいといった声もありました。

三ツ境小学校は、ふれあい清掃の目的で1年生から6年生の全クラスが普段利用している公園を清掃しました。様々なゴミが捨てられていることを知り、公園をきれいに使う大切さに気が付いたようです。

原小学校では、昨年度に引き続きトイレの外壁にペイントを実施しました。可愛い絵があるため、落書きはなくなり、効果は大きかったようです。

この活動を通じて、子供たちは公園のマナーを学ぶとともに、竹ぼうきや熊手などの使い方を教えてもらい、地域の人々と関わりを持つことで大人と子供の垣根を越え、お互いに声を掛けやすくなったようです。

そして、公園などの地域の公共施設を大切に作る心も芽生えたようです。

愛護会の方のお話を聞く
三ツ境小学校の児童

(瀬谷土木事務所 電話：045-364-1105)

各区で開催！「公園愛護のつどい」

今年の2月、3月に、「公園愛護のつどい」が、次の区で開催され、いずれも大盛況でした。

【公園愛護のつどい開催状況】

○2月8日 瀬谷区公園愛護会交流会

○2月21日 2008 フォーラムフェスタ in 戸塚「戸塚区公園愛護会のつどい」

○2月24日 青葉区公園愛護のつどい

○2月27日 栄区公園愛護会の集い

○3月1日 「水とみどり」都筑区公園愛護会連絡会総会

○3月13日 港南区公園愛護のつどい

○2月15日・29日 旭区公園愛護会交流会

○2月22日 磯子区公園愛護会の集い

○2月27日 緑区公園愛護会のつどい

○2月27日・28日 港北区「区長と語る懇談会」

○3月8日 泉区公園愛護のつどい

○3月13日 保土ヶ谷区公園・水辺愛護会の集い



技術支援レベルアップ講座 花壇で始める環境活動

花壇づくりは、ちょっとした一工夫で、環境活動の取り組みのとてもいいモデルとなります。今回は、こうした工夫の事例を紹介させていただきます。



1 リサイクル堆肥を使おう！

堆肥置場づくりを活用して、花壇に欠かせない堆肥を公園の落葉で作れば、ごみ（落葉）の「輸送」、「焼却」、「堆肥の購入」という三つの手間を減らすことができます。

他にも、公園の剪定枝をリサイクルして作った「はまっ子ユーク」という製品もあります。公園から出たものを公園へ帰すというのも、環境にとってはプラスの取り組みですよ。

2 丈夫な植物を選ぼう！

花を選ぶときどんな事を考えますか？ 一年草をたくさん使った花壇は色とりどりで華やかですが、植替えに手間とお金もかかります。ハナニラなど植えっぱなしでいい球根を使ってみたり、丈夫な多年草をうまく組み合わせると花壇の植替えの手間が減るとともに、四季の変化に富んだ花壇になります。

3 子どもに伝えよう！

まちの中で暮らす子ども達にとって草、木、土と触れ合う機会はとても貴重なことです。

ある大学の先生の話では、今後、ますます大切になる環境の取り組みを考えると、自然の意義や価値を観念ではなく感覚で分かっている、という能力は必要不可欠な資質になるのではないかとのこと。

子ども達が最初に環境のことを学ぶ場所として「公園」は身近で大きな可能性を秘めています。最初は出来るところから、是非いろいろな取り組みを育てていきましょう。

春のタネまき

今年の夏は、みなさんの公園にご自身で育てた、たくさんのお花を咲かせてみませんか。

マリーゴールドやシニア（ヒャクニチソウ）など夏から秋にかけて咲く花は、これからはタネまきの季節となります。

ほんの少しの手間をかけるだけで、案外簡単にタネから育てることができますので、ぜひ、挑戦してみてください。

花の種類によりますが、大抵は1袋にたくさんのタネが入っています。

初めての方は、10ポットから20ポットくらいが管理しやすい数ですので、お友達の方たちとタネを分けて始めてみるのも良いでしょう。

<マリーゴールドのタネまき>

性質：メキシコ原産で、日当たりと水はけのよい環境を好みます。

ソメイヨシノの花が散り葉桜となる頃から、初夏までがタネまきの適期です。

タネまきの容器は、9cm程度のプラポットなどに、土を8分目ほど入れ、2粒ずつまき、タネが隠れるように5mmくらい土をかぶせて、たっぷりと水を与えます。

発芽するまでは、日当たりの良いところに置いてください。

1週間くらいで発芽しますので、本葉2～3枚のときに1本に間引きし、日当たりと風とおしの良い場所で育てます。

水の与えすぎに注意して、元気な苗に育ててください。

